

Asada

環境を守る親切ツール

高圧洗浄機 60/50GP

取扱説明書



【ご使用前に必ず本書をお読みください。】

—目次—

安全に使用していただくために	B1-C2
重要ラベル	D1
各部の名称	D2
仕様	D3
運転準備	D4
1.設置	D4-1
2.標準付属品の確認	D4-2
3.潤滑油の確認	D4-2-D4-3
4.各ホースの接続方法	D4-4
5.燃料の補給	D4-5
6.新しいエンジンの取扱上の注意	D4-5-D4-6
7.バッテリーケーブルの接続	D4-7
運転方法	D5
1.エンジン始動	D5-1-D5-2
2.運転方法	D5-3
3.一時中断	D5-3
4.ガンの種類	D5-4
5.運転中の注意	D5-4
停止	D6
1.作業を中断する時	D6-1-D6-2
2.作業を終える時	D6-2-D6-3
使用後の取り扱い	D7
1.長期格納する場合	D7-1
2.ノズルが詰まった場合の注意事項	D7-2
3.寒冷地での保管	D7-3
4.運転終了後の不凍液注入	D7-3-D7-4

—目次—

保守・点検について	D8
1.オイル交換	D8-1-D8-2
2.エアクリーナの点検・清掃	D8-3-D8-4
3.点火プラグの点検・清掃	D8-5
4.バッテリーケーブルの点検	D8-6
5.Vベルトの点検	D8-6
定期点検項目	D9
故障診断	D10
1.エンジンがかからない時	D10-1
2.エンジンが始動してもすぐに止まる	D10-2
3.出力が出ない、出力がだんだん落ちてくる	D10-2
4.水が吸い込みにくい、また吸わない（自吸の場合のみ）	D10-3
5.圧力が上がらない	D10-4
わからない事や、故障したら	E1

安全に使用していただくために

本製品は、本書に記載した使用方法に従ってお使いいただく限り、お客様には十分満足いただけるものと信じております。

本書に従わなかった場合、重大な事故の原因になります。

本書中、および本製品に貼付した警告表示で使用している安全標識とその意味はつぎのとおりです。






誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いものを示す内容です。



誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



誤った取扱いをした時に、使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容です。

- 本書中で  **危険**  **警告** が付いた記載事項は、取扱い上特に重要な注意事項です。注意を怠った場合には、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いので必ずお守りください。
- なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

当社は、あらゆる環境下における運転・点検・整備のすべての危険を予測することはできません。したがって、本書や当製品に明記されている警告は、安全のすべてを網羅したものでは、ありません。本書に書かれていない運転・点検・整備を行った場合、安全に対する配慮が必要です。取扱店とよくご相談ください。

⚠ 危険

- ・ 本機は非常に高い圧力水を発生しますので絶対に人、動物、自分の身体に向けて噴射しないでください。この洗浄機は業務用です。すべての危険、警告、注意事項をご確認の上、ご使用ください。
- ・ 高圧水により、人体が負傷した場合、思わぬ事態になっている事がありますので、早急に医学的処置を必ず行ってください。
- ・ 噴射ガンを噴射する時に高圧水による反動がありますので両手でしっかりとガンおよびランスを握ってください。
- ・ 高所で作業する場合、足場をしっかりと固定して落下防止対策を行い、安全に作業してください。
- ・ 作業時は安全靴、ヘルメット、防護メガネ、防護服を着用してください。
- ・ 本機は水平な場所に設置し、動き出さないような措置をしてください。床面のしっかりした場所で、建物や設備から1 m以上離して使用してください。
- ・ 本機のまわりに引火物を置かないでください。また、引火物が充満するような場所で使用しないでください。
- ・ 降雨や雷鳴時は屋外での作業には使用しないでください。感電や落雷の危険があります。
- ・ 本機を使用中、異常を感じたら直ちに機械の使用を中止してください。
- ・ 本機に水や油などがかからないようにしてください。かかった時は乾いた布でよく拭き、十分に乾燥させてください。
- ・ 回転部分のカバー類を取り外したまま絶対に使用しないでください。
- ・ 運転中は回転部分に絶対に近づかないようにしてください。冷却ファン、ベルト、プーリなどの回転部分に手や身体、衣服などが巻き込まれて、けがをする恐れがあります。
- ・ 本機は指定の個所で吊り上げてください。指定以外の個所で吊ると本機の落下につながり大変危険です。
- ・ 本機のすべての部材は高圧力に耐える規格品を使用しておりますので、メーカー純正部品を使用してください。改造は絶対にしないでください。また、本機付属品は、磨耗や破損等が認められる場合には、直ちに当社販売店まで相談してください。

⚠ 警告

- ・ 過労、病気、薬物の影響のある時、飲酒時、妊娠時は使用しないでください。
- ・ 作業中に身体の痛みなど異常を感じた時は速やかに作業を中断し、十分な休息をとってください。
休息後も身体の異常を感じた場合は速やかに医師の診断を受けるなど、適切な処置を行ってください。
- ・ ガン、ランスおよび吐出ホースなどの接続はゆるんだり、外れたりすることのないように確実に接続してください。
- ・ 作業中は、高圧ホースを引っ張らないでください。
- ・ 針金などを使ってガンのレバーを固定するようなことは絶対にしないでください。
- ・ 高層建物でホースを垂直にはわす場合は、万一ホースの接続が外れても、ホースが落下しないように中間でホースを固定してください。

 **警告**

- ・ 作業終了後も高圧ホースには非常に高い高圧水を蓄圧しています。不用意にガンを握ったり無理に高圧ホース接続金具を外すと人身事故などにつながりますので必ず残圧を抜いてください。機械の故障（ガンの故障やノズル詰り等）で高圧ホースに非常に高い圧力を蓄圧している場合もありますので無理に接続金具を外さないでください。

 **注意**

- ・ 作業中は、高圧洗淨機のまわりをよく見て安全を確認してください。
- ・ 吐出された水を飲用などに用いないでください。
- ・ 清水を使用してください。ゴミ等を吸いますと、故障の原因となり、本機の能力の低下および損傷につながりますので注意してください。
- ・ 工業用水、井戸水、海水など不純物の混入した水を使用すると故障の原因になります。
- ・ 本機使用の推奨温度は 0℃～40℃までです。吸水温度は最高 40℃までです。
- ・ 圧力調整は指定圧力の範囲で調整を行ってください。上げ過ぎ、下げ過ぎ共に本機故障につながりますので注意してください。
- ・ 冬期、凍結の恐れのある場合は必ず水抜き作業を行ってください。ポンプが凍結しますと重大な故障の原因となります。0℃以下になる地域では原動機を始動させて高圧ポンプおよび配管ほか付属品に不凍液を吸水させて保管してください。
- ・ 冬期、水抜きを忘れ、凍結をしていると思われるときは、ぬるま湯等で高圧ポンプおよび配管ほか付属品の氷を溶かしてからご使用ください。むりに原動機を起動させますと故障の原因となりますので注意してください。
- ・ 空運転は絶対にしないでください。通常始動後約 10 秒程度で吸水をします。それ以上(最大 1 分間)たっても吸水しない場合は異常です。運転を中止して原因を調べてください。
- ・ 本機の点検、整備、調整を行う場合必ず原動機を停止させ圧力を抜いた後に熱部の冷却等を確認し安全に作業を行ってください。
- ・ 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を故障する原因となります。
- ・ 高圧ホースを延長する場合は 60m までにしてください。60m 以上延長する場合は、当社販売店まで相談してください。
- ・ アスベストや危険粉塵を含む環境や、放射線に被曝した恐れのある環境等で使用もしくは保管された機械は、修理者の健康を害する恐れがある為、修理はお受けできません。
- ・ 洗淨機本体を高圧洗淨しないでください。故障する恐れがあります。

異常がありましたらそのままの状態にして販売店または最寄りの弊社営業所までご相談ください。

⚠ 危険

- ・ 排気ガス中毒に注意してください。
- ・ 室内、トンネル内、船倉、タンク内、テント内など換気の悪い場所では使用しないでください。また、建物や遮へい物など風とおしの悪い場所では使用しないでください。
- ・ 燃料タンクや送油管の接合部などから燃料もれがないかよく確認してください。燃料もれは引火する危険があります。
- ・ 燃料補給は、必ずエンジンを停止し十分冷やしてから行ってください。燃料は引火しやすいので運転中の補給は絶対しないでください。
- ・ 給油時は火気を近づけないでください。
- ・ 燃料補給などで燃料タンクのキャップを開ける時は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。静電気の放電による火花により引火する恐れがあります。
- ・ 燃料は給油口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり、火災の恐れがあります。
- ・ 燃料給油キャップは確実に閉めてください。もし燃料がこぼれた時は乾いた布で完全に拭き取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- ・ 運搬時には、燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜き取り、本機が転倒したり動いたりしないようしっかり固定してください。
- ・ 長期保管前には、タンク内の燃料を抜き取り本機を火気や湿気のないところに保管してください。また、抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発の恐れがあるので、所定の燃料タンクなどに入れ保管してください。
- ・ 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせないでください。エンジンが過熱し本機が損傷するばかりでなく、火災の恐れがあります。
- ・ 燃えやすいもの（わらくず、紙くずなど）や危険物（油脂類、シンナー、火薬など）の近くでは使用しないでください。
- ・ バッテリーの周辺は換気を良くして、火気を近づけないようにしてください。運転中や充電中にはバッテリーから水素ガスが発生するので引火の危険があります。
- ・ バッテリーの液面高さが下限レベル以下では使用や充電をしないでください。爆発の恐れがあります。
- ・ バッテリーの電解液は強い酸性液で、皮膚、目などに付着すると大変危険です。
- ・ 運転中および停止直後はマフラや、マフラカバー、エンジン本体およびその周辺は熱くなっていますから、手や肌が触れないようにしてください。
- ・ 運転中は高圧線、点火プラグ、およびキャップ部に触れないでください。感電、漏電の恐れがあります。
- ・ オイルの補給後は検油棒を確実に締めてください。熱いオイルが飛散する恐れがあります。
- ・ 熱いエンジンオイルが体にかかるとヤケドする恐れがあります。十分注意してください。



- ・ エアクリーナのエLEMENTは必ず取り付けて始動、運転してください。逆火により炎がふき出す恐れがあります。
- ・ 点検整備は、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外して行ってください。
- ・ バッテリーケーブルを接続したままで電気系統を点検、整備すると誤ってショートさせ火災を起こす危険があります。作業前に必ずアースケーブル（－）の端子を外してから行ってください。

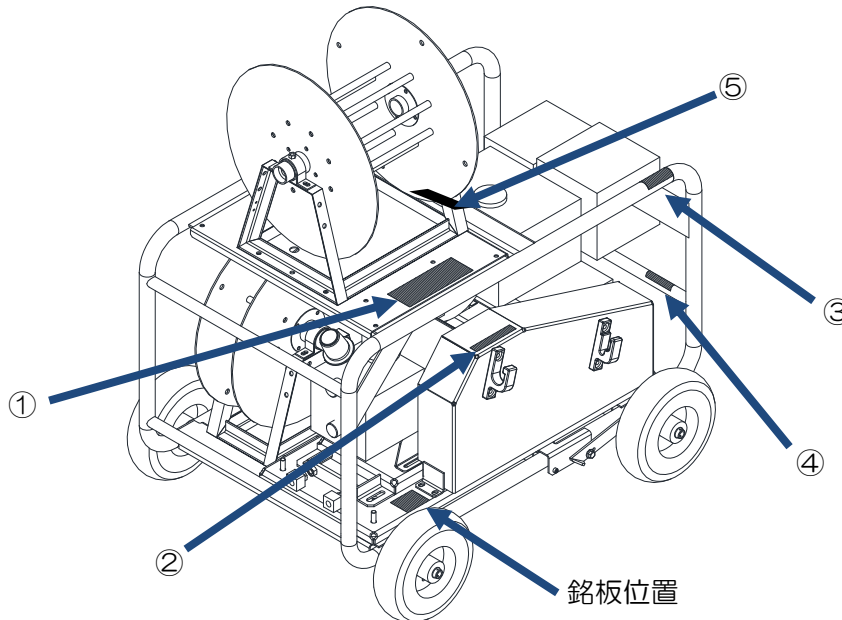


- ・ 作業をしたままの状態ですぐにエンジンを止めると、マフラ内で未燃ガソリンに着火し、爆発音が出たり炎が噴出する場合があります。しばらく無負荷運転してからエンジンを停止してください。
- ・ 始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や損害物がないか確認してから行ってください。ケガをする恐れがあります。
- ・ 蒸気や高圧水でエンジンの洗浄を行う際には、エアクリーナ、および電気部品・オイルプラグに水やほこりがかからないようにカバーをかけて保護してください。
- ・ エンジンを雨にさらさないでください。保管時はエンジンにカバーをかけ、雨やほこりがかからないようにしてください。
※運転時は、カバーを必ず外してください。

本書とは別に原動機を取扱説明書が添付されていますので、必ずそちらもお読みください。

重要ラベル

- 警告表示は常に汚れや破損の無いように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しい物に貼り直してください。
- 安全銘板の購入は、最寄りの販売店にお申し付けください。



⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
高圧水注意 ガンノズルを人や動物に向けて噴射しないで下さい。又運転停止時には高圧ホースの残圧を抜いて下さい。	保護具 作業時は、ヘルメット、手袋、ゴーグル等目を保護するものを着用し、適切な作業着を着用して下さい。	取扱説明書 必ず取扱説明書をお読みください。「危険」「警告」「注意」事項に従わないと重大事故の危険性あり。
車輪止め 運転中に本機が移動しない様に、車輪に歯止めをし、水平な場所に本機を設置して下さい。	凍結防止 冬期など0℃以下になる場合は必ず水抜き作業を行い、不凍液注入などで凍結防止して下さい。	空運転禁止 無吸水での運転はしないでください。

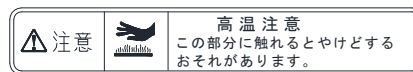


① PL シール 70×150

② 運転中はプリー...



③危険 排ガス注意

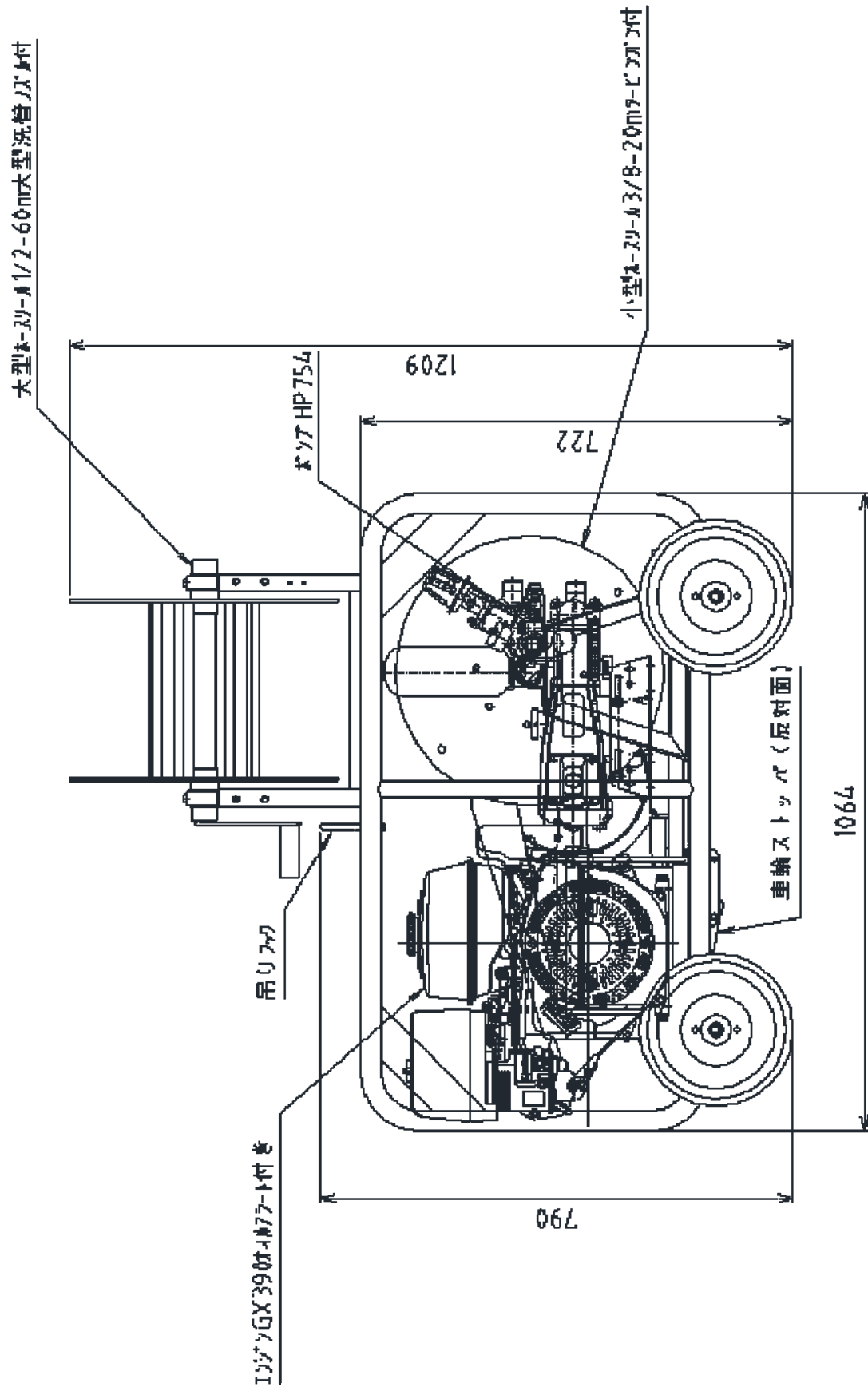


④注意 高温注意...



③注意 吊り位置

各部の名称



仕 様

型式		高圧洗浄機60/50GP		
ポンプ	高圧ポンプ名称		HP754	
	最大吸水量 (L/min)		60	
	最大吐出圧力(MPa) {kgf/cm ² }		4.9(50)	
	使用潤滑油		SAE 10W-30	
	ポンプ潤滑油量 (L)		1.2L	
エンジン	搭載機関型式		GX390UT2LXE8	
	総排気量 (cc)		389	
	定格出力 (kW{ps}/min ⁻¹)		7.0kW{9.5PS}/3600min ⁻¹	
	始動方式		セル+リコイル	
	燃料油	使用燃料油	無鉛レギュラーガソリン	
		燃料タンク容量(L)	約6.1	
	潤滑油	使用潤滑油	SAE 10W-30	
容量(L)		1.1L		
伝達方式			Vベルト	
セット	外寸	L×W×H(mm)	1064×832×1209	
	乾燥質量 (kg)		196	
標準付属品	噴射ガン	ガン	タービンガン	
		チップ	直射φ3.5	
	高圧ホース		3/8" -20m (黒)、1/2" -60m (黄)	
	吸水ホース		1" - 3m	
	余水ホース		3/4" - 3m	
	その他		本書,エンジン取扱説明書,オイル	
装備品			オイルアラート停止装置	
			大型ホースリール(1/2"-60m)	
			小型ホースリール(3/8"-20m)	

※本説明書のほかにエンジンの取扱説明書が同封されております。

備考：性能の向上、改善の為、上記仕様を予告なく変更させていただくことがありますので、ご了承ください。

運転準備

⚠ 危険



- 排気ガス中毒防止の為、室内、トンネル内、船倉、タンク内、テントなど換気の悪い所では使用しないでください。また、建物や遮断物で風通しの悪い場所では使用しないでください。

⚠ 注意



- 運転は、床面のしっかりした水平な場所で建物や設備からは 1m以上離して使用してください。洗浄機が傾いたり、まわりが過熱することがあり危険です。

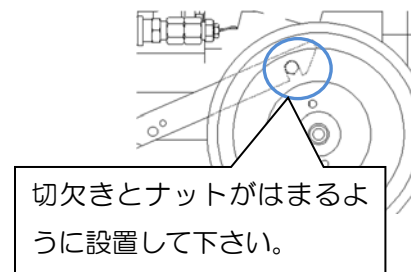
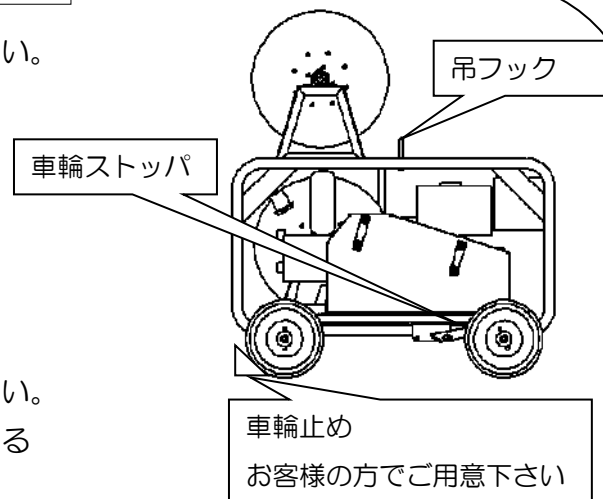
1. 設置

⚠ 警告

- 本機をフレーム部で吊り上げないでください。脱落の可能性があり大変危険です。本機を吊り上げる際は吊りフックをご使用ください。

- 設置する際は必ず平坦な場所に設置し、車輪ストoppaをし、車輪止めをしてください。車輪ストoppaは切欠きとタイヤに付いているナットがはまるようにしてください。

- 本機にビニールカバー等をかけたままでの運転はしないでください。火災になることがあります。



運転準備

2. 標準付属品の確認

- 標準付属品が全てそろっているか確認してください。（仕様の標準付属品をご参照ください。）

 <p>ガン</p>	 <p>高圧ホース 3/8" (黒) (ホースリール巻き付け)</p>	 <p>高圧ホース 1/2" (黄) (逆噴ノズル付) (ホースリール巻き付け)</p>
 <p>吸余水ホース</p>	 <p>オイル</p>	 <p>本書 エンジン 取扱説明書</p>

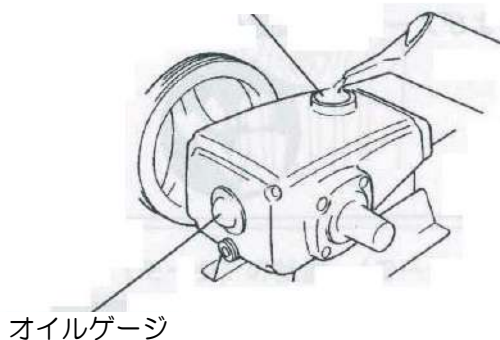
3. 潤滑油の確認

- エンジン、ポンプのオイルが必要量入っているかをサイトグラスまたはオイルゲージで確認してください。

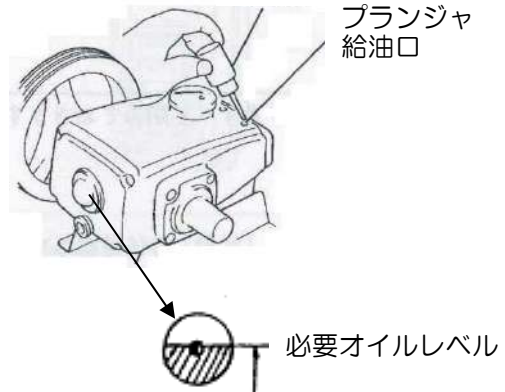
●ポンプオイル

- ポンプのオイルが必要量入っているかをサイトグラスで確認してください。
- 付属のオイルの先を切り、それぞれ3ヶ所のプランジャ給油口にオイルを10滴ほど給油してください。給油によりプランジャのシールの寿命が長くなります。

クランクケース給油口



オイル

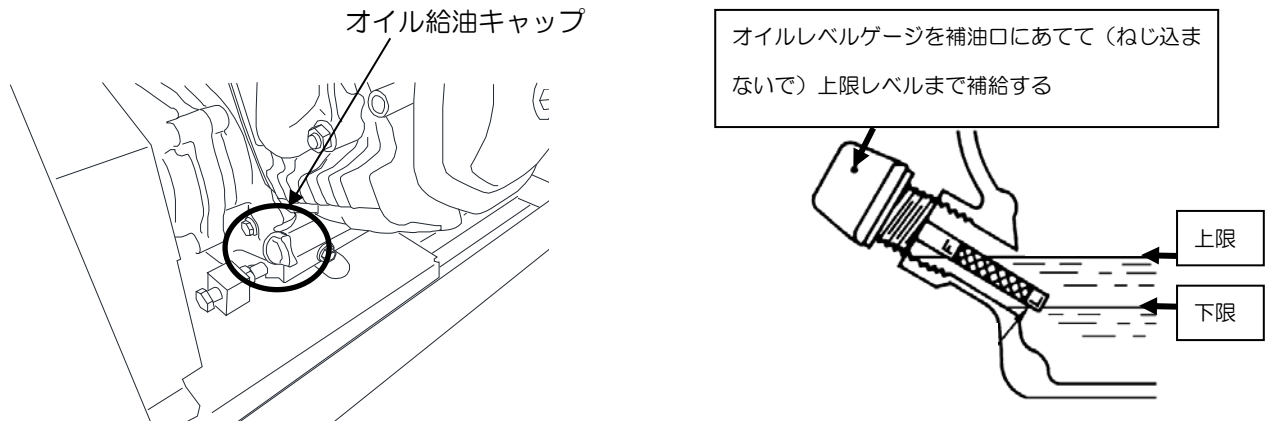


運転準備

●エンジンオイル

オイル量の点検を以下の手順に沿って行ってください。

- ① 本機を水平にし、オイル給油キャップを取り外し、注油口の口元までオイルがあるか確認してください。



- ② オイル量が不足している場合は給油口から給油してください。（オイル容量：1.1L）

⚠ 注意

- 指定以外のオイルを使用したり交換を怠ったりしますと、エンジンの寿命を縮めるおそれがあります。
エンジンオイル：SAE10W-30
- エンジン側にはオイルアラートが装置されています。油量が減少すると作動し、エンジンが停止します。オイルは必ず上限まで入れてください。
- 本機を傾けた状態でオイルを入れると規定量よりも多く入ったり、逆に少なかったりします。オイルを入れすぎるとオイルの消費が多くなったり、オイルの温度が上がり有害です。オイルが少ないと焼付くことがあります。

運転準備

4. 各ホースの接続方法

●弊社標準付属品の吸余水ホース、高圧ホース、噴射ガンをご用意ください。

警告



- 接続は確実にしてください。特に吐出側は高圧ホースの為、外れると危険です。
- ホースを接続したまま強く引っ張らないでください。接続部が緩み圧力漏れの原因となります。

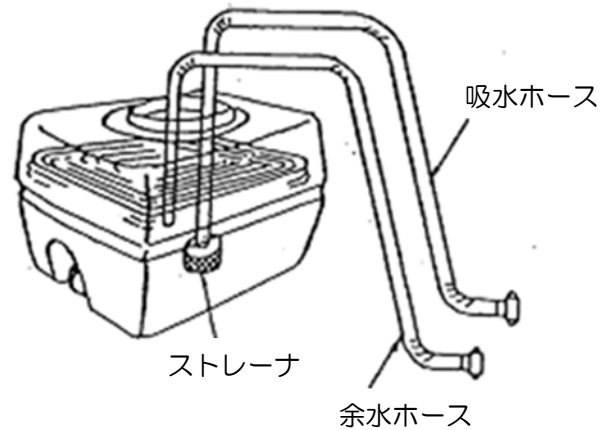
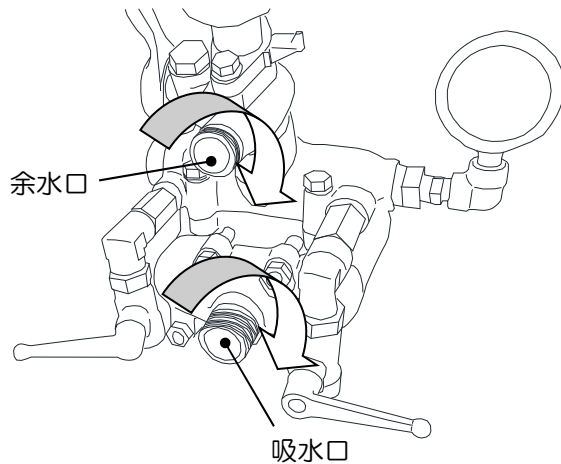
注意

- 使用水は水道水（清水）を使用してください。
- シールキットの交換は、その使用時間に係わらず交換に関しては有償対応となります。
- 海水、河川、池、泥水、工事用水等の不純物の混入した水を使用すると故障する恐れがあります。水道水を使用してください。

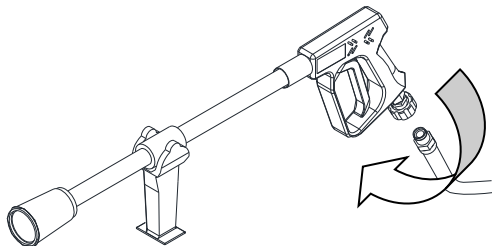
① 付属されている吸余ホースを本機の吸水口及び余水口に接続してください。また、取付ける際、パッキンを確認します。特に吸水ホースのパッキンに不具合がある場合は、本機の振動、吸水不良につながり、ポンプの寿命を縮めることとなります。

取り付ける際は矢印方向（時計回り）にねじ込んでください。

吸水ストレーナは完全に水に沈め空気を吸わない様にしてください。



② 高圧ホース 3/8" を付属されているガンに接続してください。



運転準備

5. 燃料の補給

⚠危険



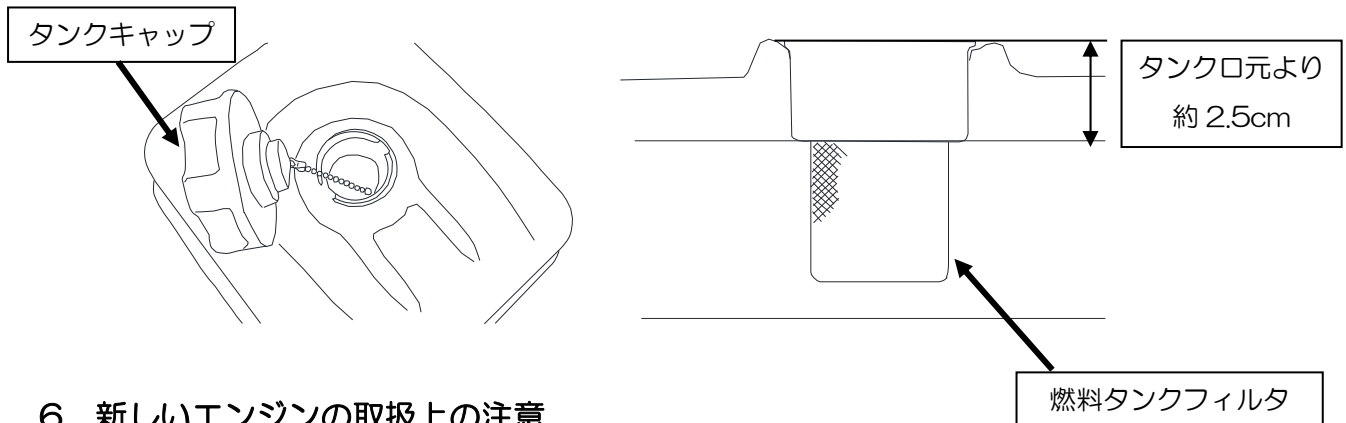
火気厳禁

- ガソリンの入れすぎはこぼれて危険です。
※規定レベルよりややひかえ目に入れてください。ガソリン補給後は、タンクキャップは確実に閉めてください。
- ガソリンは引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。

タンクキャップを開け、燃料タンクに自動車用レギュラーガソリンを入れてください。

規定レベル：燃料タンクフィルタのレベルゲージ

(※燃料タンク容量：D3仕様欄をご確認ください)



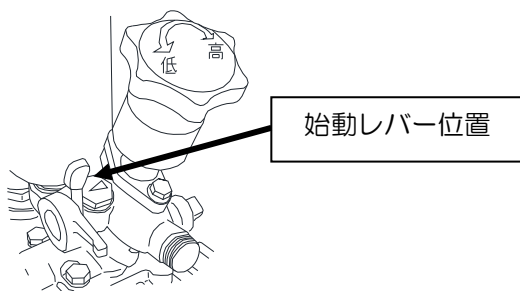
6. 新しいエンジンの取扱上の注意

エンジンの始動はエンジン取扱説明書に従って行ってください。

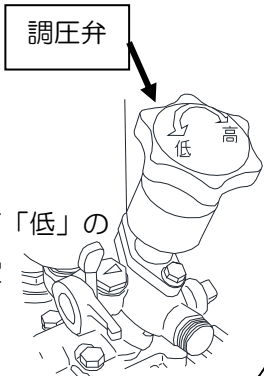
⚠注意

- エンジンが新しいうちは各部がなじんでいないため、無理な使い方をするとエンジンの寿命を短くします。最初の 20 時間くらいまでは、慣らし運転期間として、つぎのことをお守りください。

- ① 始動後、約 1~2 分間は始動レバー位置で暖気運転を行ってください

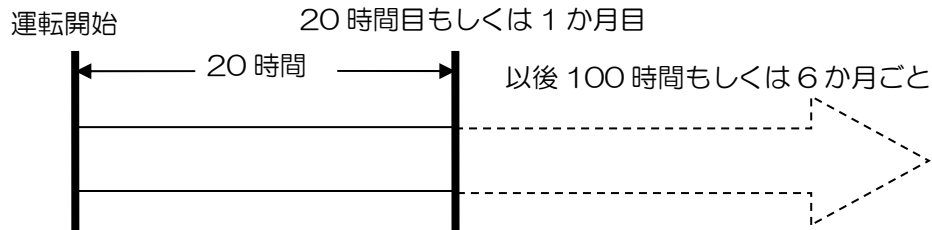


- ② 負荷運転（オーバーロード）をさけてください。慣らし運転期間はエンジンに無理な負荷がかからないように、調圧弁にて「低」の方向に回し圧力設定を 4MPa としてください。

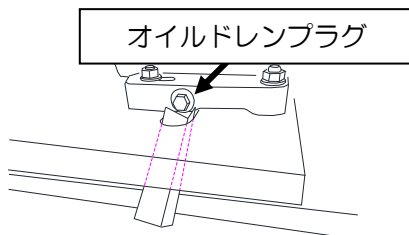


運転準備

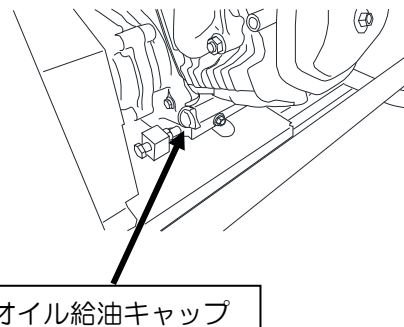
運転開始後約 20 時間目もしくは 1 か月目どちらか早い方に、オイル交換を行ってください。
交換の際はエンジンの暖かいうちにオイル交換を行ってください。



- ① エンジンオイルの交換を確実に行ってください。オールドレンプラグを外し、エンジンオイルを排出してください。厚紙等でオイル受けを設けてください。



- ② オイル給油キャップを外し、新品のエンジンオイルを入れてください。



警告



- 熱いオイルが体にかかるとやけどする恐れがあります。十分注意してください。
- オイルの交換時は必ずエンジンを止めてください。

注意

- 運転開始後 20 時間目もしくは 1 か月のオイル点検はつぎ足しではなく、交換を行ってください。
- オイルの抜き出しはエンジンが暖かいうちに行わないと古いオイルが完全に排出されません。

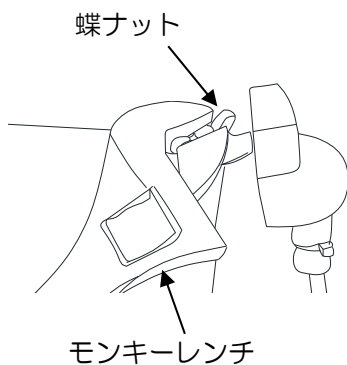
運転準備

7. バッテリーケーブルの接続

工場出荷時はバッテリーにマイナス側のケーブルを外した状態となっております。

バッテリーにマイナス側のケーブルを取り付けてください。(黒色のキャップがマイナスです)

- ① バッテリーにマイナス側のケーブルを取り付けてください。
ケーブル端子はモンキーレンチなどを使って、蝶ナットで固定してください



- ② 端子、蝶ナットが隠れるように付属されているキャップを被せてください。

黒色のキャップが マイナスです
赤色のキャップが プラスです



・バッテリーケーブルの接続を誤るとショートする場合があります。

運転方法

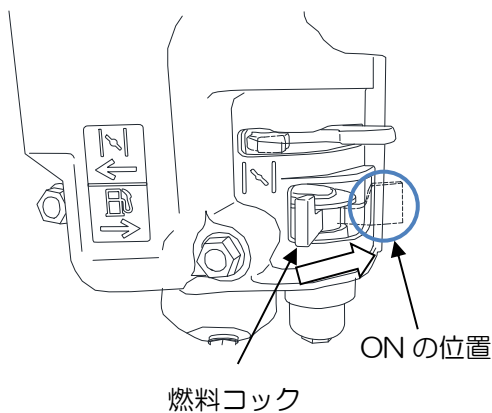
1.エンジン始動



火気厳禁

- ・エアクリーナのELEMENTフタは必ず取付けて始動・運転してください。
逆火により炎が噴き出す恐れがあります。
- ・エンジンを始動する前に本機のまわりをよく見て危険のないことを確認してください。

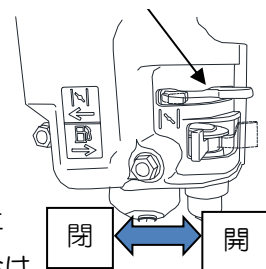
① 燃料コックを“ON”の位置にします。



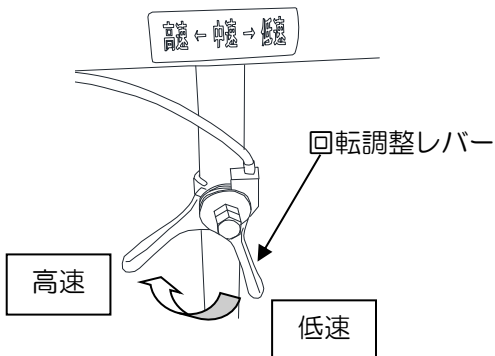
② チョークノブを引きます(閉の方向)。

チョークの開度は以下となります。

- ・寒い時やエンジンが冷えている時は
チョークノブを左一杯に動かし、「全閉」にします。
- ・暖かい時や運転停止直後再始動する場合は
全開もしくは半開にしてください。



③ エンジン回転調整レバーを低速から高速の方向(矢印の方向)に少し動かします。

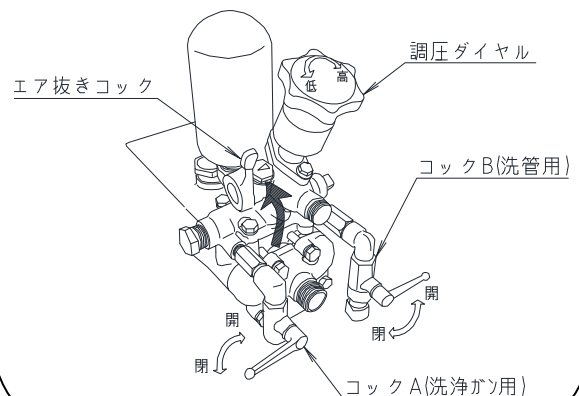


④ ポンプの設定は始動レバー位置及び調圧弁で圧力低方向一杯に回して

エンジン始動を行ってください

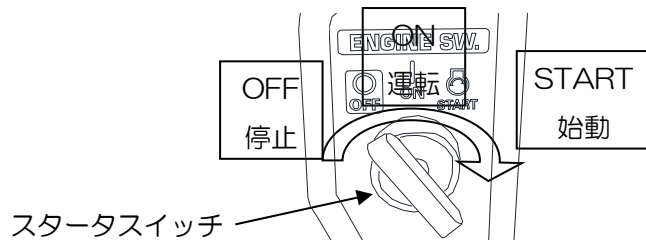
また、洗浄用吐出コックはどちらも閉の

ことを確認してください



運転方法

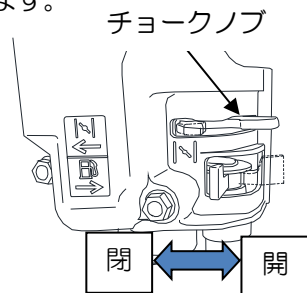
- ⑤ スタータスイッチを回して始動してください。



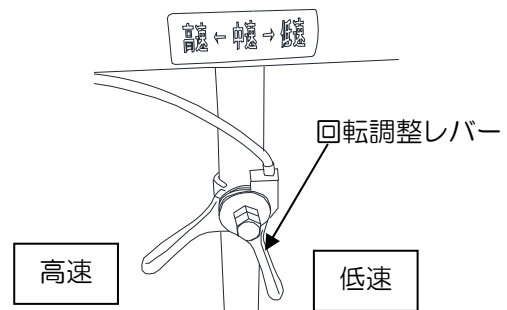
⚠ 注意

- ・ スタータを長時間回しているとスタータが焼損します。連続 5 秒以上は回さないでください。エンジンが回転中は、スタータスイッチを START の位置に回さないでください。スタータが損傷します。
- ・ エア抜きコックを加圧の位置に合わせない状態で調圧ダイヤルを回すと圧力が上がらなかったり、エア抜きコックが故障したりします。
- ・ 管洗浄の場合、コックBを開くとすぐに洗管ノズルより噴射し危険です。ホースを 2~3m 管内に入れてからコックBを開いてください。

- ⑦ チョークノブを操作した場合は、チョークノブを徐々に「開」の方向に戻して、約 1~2 分間暖気運転を行います。



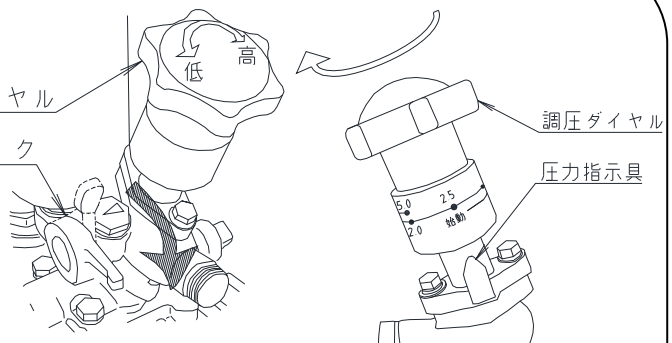
- ⑧ エンジン回転調整レバーを高速側へ一杯にしてください。



- ⑨ 圧力調整をしてください。

- ・ エア抜きコックを確実に加圧の位置に合わせて下さい
- ・ 圧力計を見ながら、調圧ダイヤルを右回転(時計方向)に回し、圧力を上げる。調圧ダイヤルのノッチは、1 段目は約 1MPa で、2 段目以降は約 0.5MPa ずつ変化します。

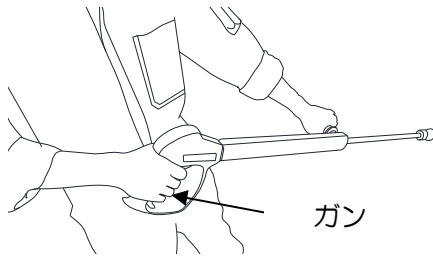
(最高圧力は、4.9MPa です。それ以上の圧力には絶対にしないでください。)



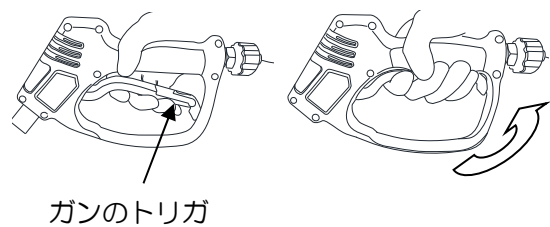
運転方法

2.運転方法

- ① 両手でガンをしっかり
持ってください。



- ② 噴射ガンのトリガを引いて高圧ホース
のエア抜きを行ってください。



⚠危険



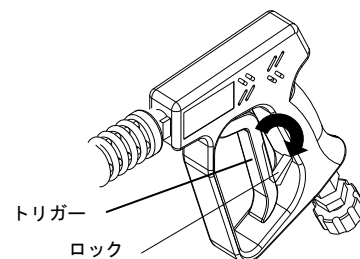
- ・噴射ガンより水を噴射させる時は、両手でしっかりとガンを握り、人、動物、自分の体に絶対に向けないようにしてください。
- ・エアが抜けると同時に高圧水が勢いよく噴射し、反動が大きくなります。危険ですのでしっかりと両手でガンとランスを持ってください。

⚠注意

- ・ノズルから水が出ない場合、1分以上の空運転を行わないでください。1分以上の空運転はポンプの早期損傷につながりますので注意してください。
- ・エンジン停止時に、セルスタータ付エンジンの場合はキースイッチがONの状態では放置しますとバッテリーが上がり、エンジンが始動できなくなります。必ず、スイッチをOFFの位置に戻してください。

3.一時中断

- ・トリガーを放して噴射を停止してください。
- ・トリガーを危険防止の為、必ずロックしてください。



⚠警告

- ・5分以上噴射を停止する場合は、エンジンのストップスイッチをOFFにしてください。この時、高圧ホース内に残圧水が残っていますので必ずガンのトリガーを握り圧力水を抜いてください。

運転方法

4.ガンの種類

洗管ノズル

◎ 洗管ノズルは、標準付属品として大型ノズルを付けています。

○大型洗管ノズル 自走能力、逆噴射力が強く管径 300mm 位で 50m 程度は自走します。

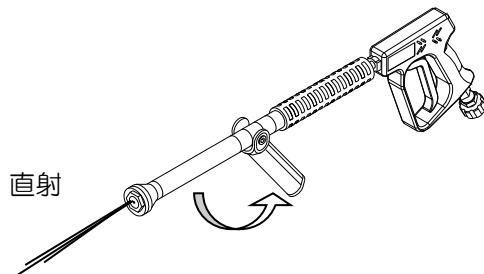


注意

- ・ コック A、コック B で使用しない方のコックは必ず閉止してください。

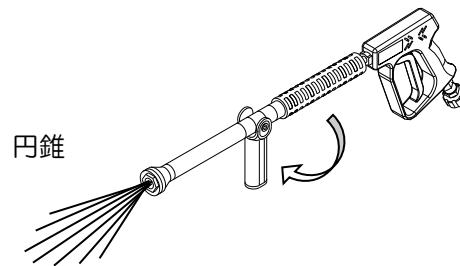
タービンガン

タービンガンは高圧水を直射から円錐状に自由に変えられます。
作業内容により使い分けてください。



直射

レバーを手前に引くと直射になります。



円錐

レバーを奥に押すと円錐状になります。

5.運転中の注意

エンジンオイル量が不足した場合、エンジンは自動的に停止します。

この場合は、エンジンオイルを補給してください。



注意

- ・ オイルセンサによってエンジンが停止した場合は、エンジンのキースイッチが ON の位置になっています。ON の状態で放置しますと、バッテリーが上がり、エンジンが始動できなくなります。必ず、スイッチを OFF の位置にもどしてください。

異常がありましたらそのままの状態にして、最寄りの販売店又は、弊社営業所までご相談ください。

停止

注意



- 作業をしたままの状態ですぐにスイッチを止めると、エンジンの温度が急激に高くなり、エンジンの寿命が短くなります。
しばらく（2～3分）無負荷（トリガを引かず）運転してから、エンジンを停止してください。

危険

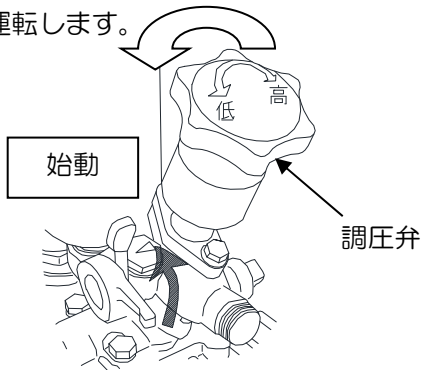


火気注意

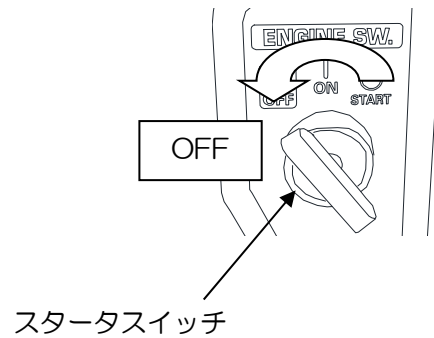
- 作業をしたままの状態ですぐにスイッチを止めると、排気消音機内で未燃ガソリンに着火し爆発音が出たり、炎が噴出する場合があります。
しばらく（2～3分）無負荷（トリガを引かず）運転してから、エンジンを停止してください。

1. 作業を中断する時

- ① 調圧弁の圧力を下げ始動レバー位置を加圧から始動位置に変更します
その状態で無負荷運転を2～3分運転します。

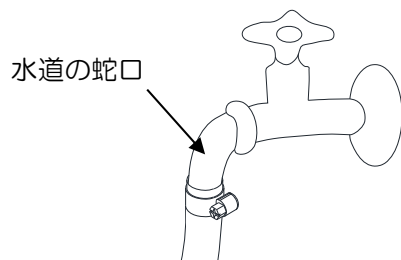


- ② エンジンのスタータスイッチをOFFにします。



停止

- ③ タンクへの水供給の水道の元栓を閉めて、水道水が供給されない状態にしてください。



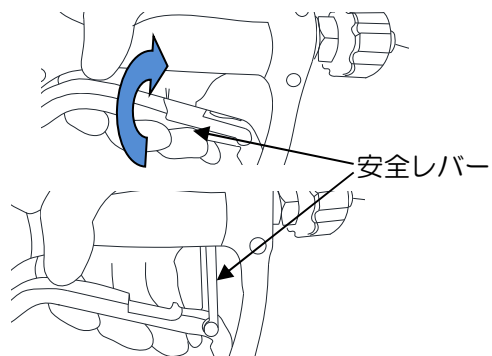
⚠ 注意

- 洗浄作業を5分間以上中断する場合はエンジンを止めてください。
パッキン・シールが故障する原因となります。

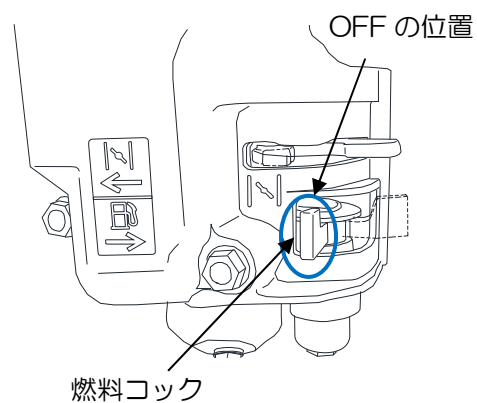
2. 作業を終えた時

1. 中断する時の①～③は同一です。

- ⑤ 危険防止のため、噴射ガンのトリガを安全レバーでロックしてください。安全レバーを矢印の方向へ起こしてください。

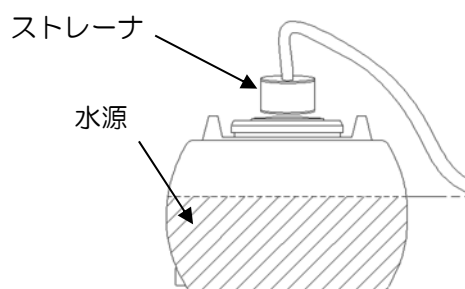


- ⑥ 燃料コックをOFF（閉）の位置にしてください。

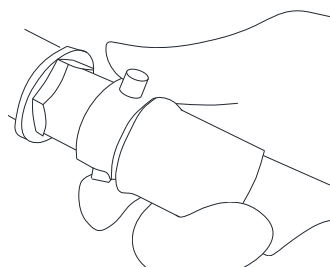


停止

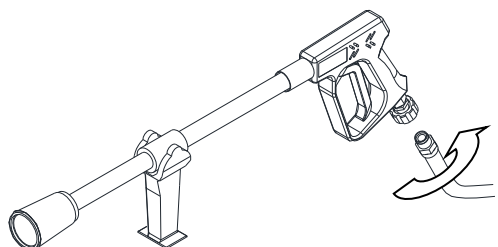
- ⑦ 高圧ポンプの水抜き作業（自吸で使用）
吸水ホースのストレーナを水源から
上げて、空気を吸わせる状態に
してください。



- ⑧ 吸水ホース、余水ホースを外し、内部の
水を出してください



- ⑨ 高圧ホースはタービンガン、又は洗管
ノズルを外しホースリールに巻きなが
ら水を抜いてください。



- ⑩ ポンプ内部の水抜き
シリンダドレンボルトを開きエンジンを最
低速運転し、ドレン口より水が出なくな
ると運転を停止してください。（その場合コッ
クA、コックBは閉止してください。）
運転時の操作は D5-1 を参照ください。



⚠ 注意

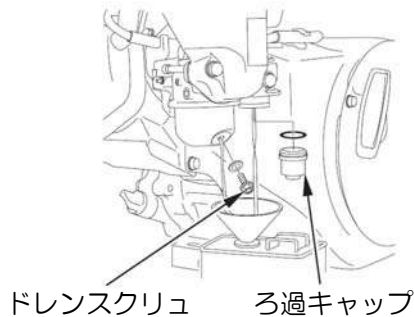
- 高圧ホースの残圧を確実に抜いてください。残圧を抜かずに無理にカプラを外すと勢いよく金具が外れたり、高圧水が噴出する可能性があります。大変危険です。
- 水抜きは、30 秒程度で終わります。それ以上の空運転は高圧ポンプの故障原因となりますので注意してください。
- 凍結のおそれのある場合は、必ず水抜きをしてください。0℃以下になる地域では、不凍液をポンプに吸入させてください。

使用後の取扱い

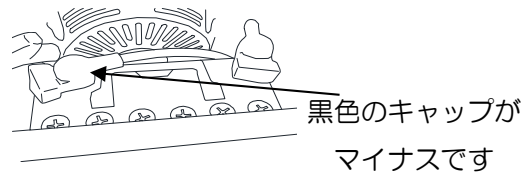
1. 長期格納する場合

- ① 各部に付着した泥・ほこり・油汚れを掃除してください。
- ② 定期点検間近な点検事項は、保管前に済ませてください。

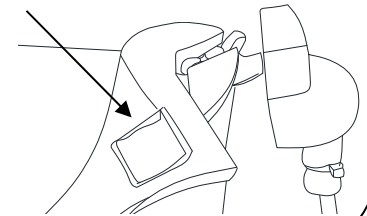
- ③ 1か月以上、エンジンを使用しない場合は、燃料タンク・気化器・ろ過キャップ内の燃料を抜いてください。
気化器（キャブレタ）内の燃料はフロート室のドレンスクリューをゆるめて抜いてください。



- ④ バッテリのマイナス端子からバッテリーケーブルを外してください。



端子は蝶ナットで接続されているので、モンキーレンチ等で外してください



- ⑤ リコイルスタータノブをゆっくり引き重くなった位置（圧縮工程すなわち吸排気口が密閉した位置にして放置中の内部発錆を防ぎます）で止めておきます。
- ⑥ 水・ほこりなどから電装品を守る為、本体にビニールカバーなどをかぶせてください。
- ⑦ 保管場所は、湿気やほこりがなく風通しの良い場所を選んでください。
- ⑧ 保管中、バッテリーの自然放電処置の為、3か月に1回充電をしてください。
- ⑨ 次回使用時は新鮮なガソリンを入れてください。
- ⑩ オイルは自然劣化いたします。使用しない場合も定期的に交換してください。（6ヶ月に1回）

使用後の取扱い

2. ノズルが詰まった場合の注意事項



- ・ノズルが完全に詰まると、高圧ホースの中の高圧水が抜けずに高圧のまま残る為、カプラが固くなります。その状態で無理に緩めるとカプラが勢いよく外れたり、高圧水が噴出することがあります。

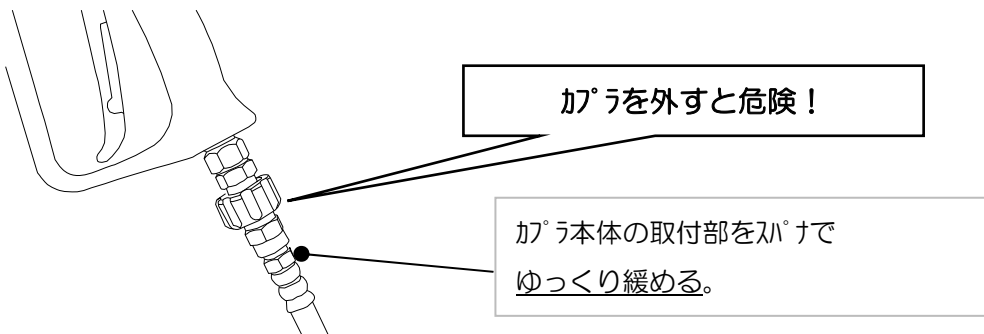
ノズルが詰まった時のカプラの外し方

- ・洗浄作業と同じようにヘルメット、防護メガネ、防護手袋を着用します。
 - ① 噴射ガンと高圧ホースの接続部を平らな安定した場所に移動させます。(作業台上でバイスがあればホース金具を固定します。)
 - ② 接続部をウエス等で覆います。(万が一高圧水が噴出した時にウエス等が緩衝材になります。)
 - ③ カプラの取付け部をゆっくり緩める。
(圧力を少しずつ抜くことで勢いよく高圧水が噴き出すのを防止します。)

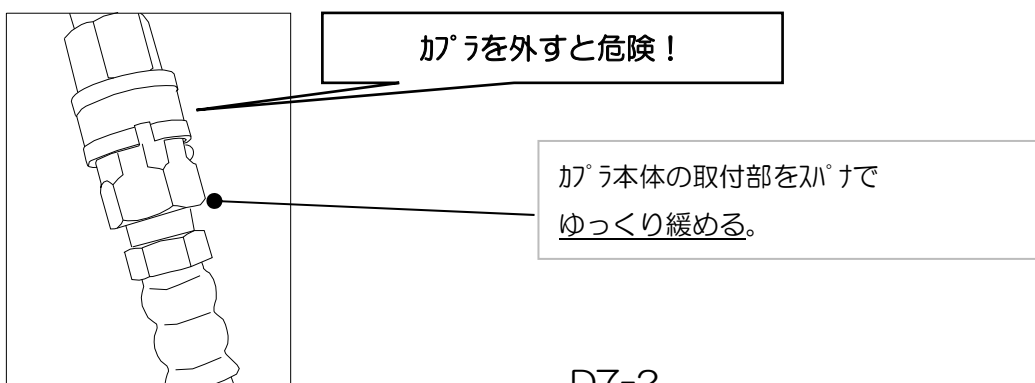


- ・カプラ接続部を勢いよく外すと、大変危険です。カプラ本体を取り付けているネジ部をゆっくり緩めて圧力を少しずつ抜いてください。

【クイックカプラ】



【ワンタッチカプラ】



使用後の取扱い

3. 寒冷地での保管



- 気温が0°C以下の場合は原則として使用しないでください。凍結によりポンプやエンジンが損傷します。
- 使用後の保管場所が凍結の恐れのある場合、必ず不凍液注入をしてください。(不凍液はガソリンスタンドまたは自動車用品店でお求めください。)

止むを得ず氷点下で作業する場合

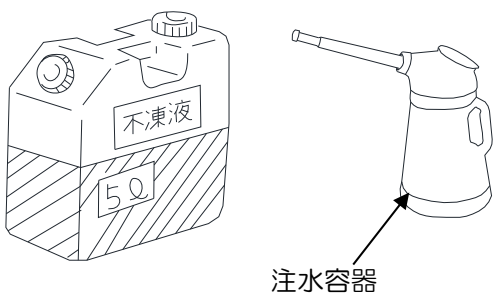
- ① 前回使用後、不凍液処理をしていない場合、必ず暖房設備のある暖められた室内に置いて本機、水道ホース、高圧ホース、ガンなどを常温で十分に暖めてください。
- ② ホースが弾性を取り戻し、各部の凍結が完全になくなってから次項の不凍液を注入して本機を作業現場へ搬出してください。搬出中に再凍結させないためです。
- ③ 作業中断中の再凍結を防ぐため、運転はできるだけ連続吐出で行い、作業中断の際はD16、D17の手順に従い、作業を中断してください。

4. 運転終了後の不凍液注入

○不凍液 5L 程度とジョッキ等、注水容器を用意してください。

(自吸用ホースをお持ちの場合、注水容器は不要です。)

- ① 不凍液を注水容器に移してください。
自吸ホースをお持ちの場合はバケツやタンクに不凍液を移してください。



- ② D6を参照の上、ポンプ・高圧ホースの水抜きを行ってください。
水抜き後吸水口に自吸ホースを取り付けて下さい。



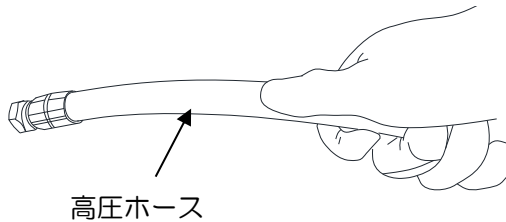
- ③ D5を参照の上、エンジンを始動してください。



- 注水容器は不凍液用もしくは新品を不凍液用として使用してください。
オイル等の容器と共用すると、ポンプが故障する原因となります。

使用後の取扱い

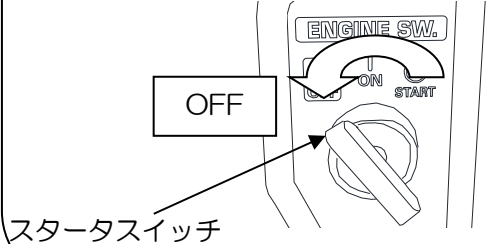
- ④ 高圧ホースが暴れないように手で持つなどして、固定してください。



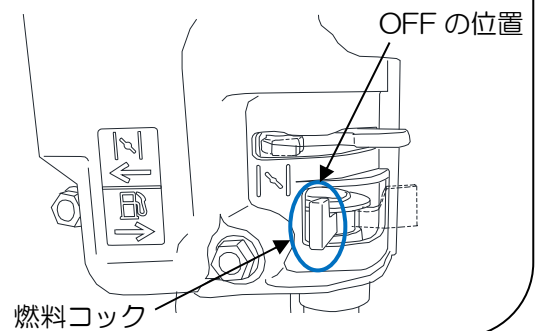
- ⑤ ホースのストレーナを不凍液内に沈ませてください。



- ⑥ 高圧ホースから不凍液が吐出されれば、エンジンのスタータスイッチを「OFF」にしてください。



- ⑦ 燃料コックをOFF（閉）の位置にしてください。



警告



- 高圧ホースからは勢いよく不凍液が吐出されます。危険ですので、ホースは暴れないよう必ず固定してください。

保守・点検について

⚠ 危険

- 本機の点検整備調整を行う場合は、必ずエンジンを停止させ、圧力を抜いてから行ってください。

1. オイル交換

⚠ 警告



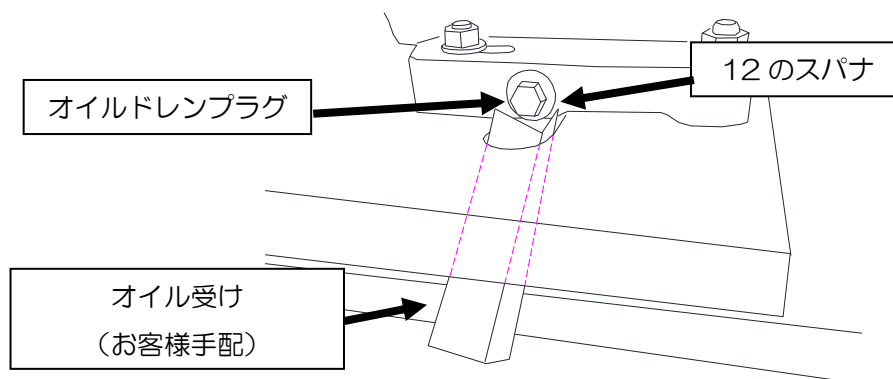
- オイルの交換作業後は、ドレンプラグや検油棒を確実に締め付けてください。熱いオイルが体にかかると火傷をする恐れがあります。十分注意してください。

⚠ 注意

- エンジンオイルの点検、交換は付属のエンジン取扱説明書に従ってください。

① エンジンオイル交換

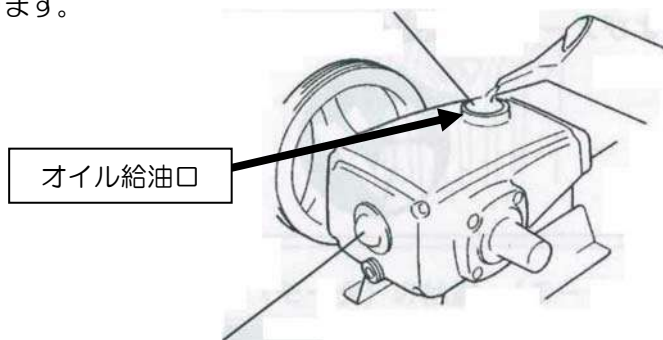
エンジンがまだ温かいうちに、12のスパナでオイルドレンプラグを外し、エンジンオイルを排出してください。厚紙等で受けを使い流すとオイルダレが少なくすみます



保守・点検について

② ポンプオイル交換

ポンプのクランクケースがまだ温かいうちに、オイル給油口からオイルチェンジャー等で抜き取ります。



⚠ 注意

- 新油は必ず SE 級以上のオイルを規定量(D3 参照)入れてください。
(交換時期は、D9 を参照)

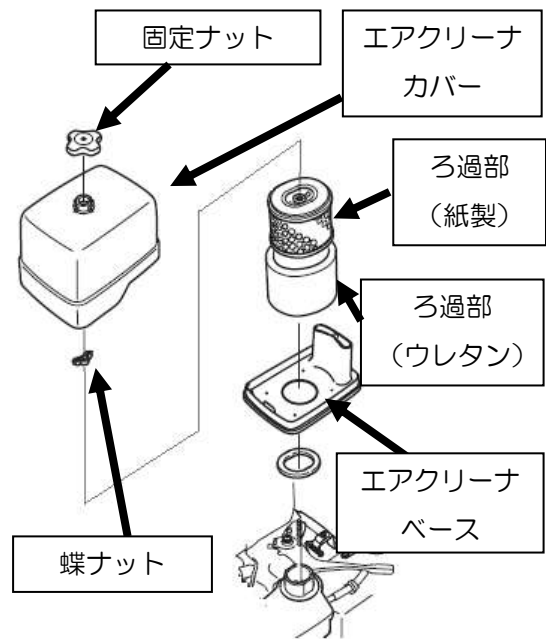
保守・点検について

2. エアクリーナの点検・清掃

清掃時期・交換時期については D9 を参照してください。
 ただ、ほこりの多い場所で使用した場合は
 10 時間運転または 1 日 1 回清掃してください。

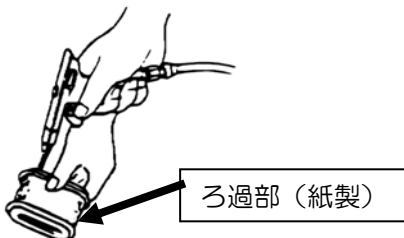
点検方法

- ① 固定ナットを外してエアクリーナカバーを取り外します。
- ② 蝶ナットを外し、ろ過部（ウレタン、紙製）が汚れていないか、確認します。
- ③ 汚れている場合は清掃してください。汚れているとエンジン性能が低下します。

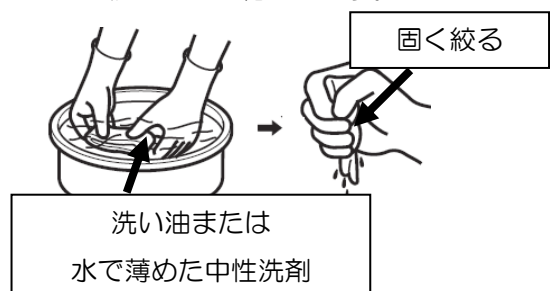


清掃方法

- ① ろ過部（紙製）の内側から圧縮空気を拭き付けるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。



- ② ろ過部（ウレタン）を洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗い、固く絞ってから乾かします。



⚠ 危険



- 洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- 清掃は換気の良い場所で行ってください。

保守・点検について

- ③ ろ過部（ウレタン）を新しいエンジンオイルに浸したあと、固く絞ります。

新しいエンジンオイル



固く絞る

- ④ エアクリーナケースに付着したほこりを取除いてください。その際、空気吸入口にほこりが入らないようにしてください。



- ⑤ ろ過部（ウレタン、紙製）、エアクリーナカバーを取り外しと逆の手順で取付けます。

⚠ 危険



- ・エアクリーナのエレメント、フタは必ず取付けて運転してください。逆火により、炎が噴出する場合があります危険です。

⚠ 注意

- ・汚れがひどくなると空気の流通が悪くなり、出力が低下し燃料、エンジンオイルの消費が多くなります。汚れている場合は清掃をお願いします。
- ・また、汚れがひどい場合、上記以外にも始動不良などの故障原因になります。
- ・エレメントを取り外したまま使用したり、穴のあいたエレメントを使用する事は絶対にしないでください。
- ・ろ過部（ウレタン）にオイルをつけすぎないように注意してください。
- ・パッキンが確実に付いていることを確認してください。

保守・点検について

3. 点火プラグの点検・清掃

電極が汚れていたり、プラグ隙間が不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなり、エンジン不調の原因になります。

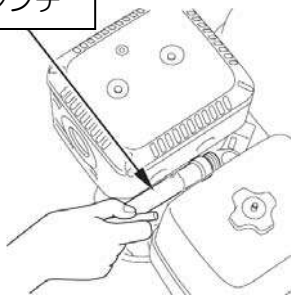


- ・エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

点検時期・交換時期については D9 を参照してください。

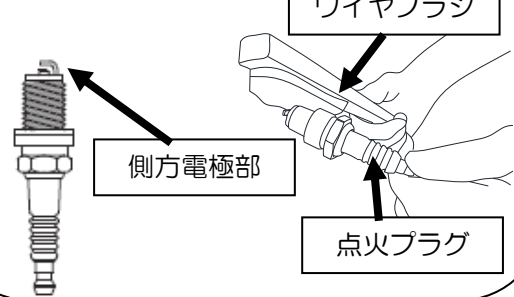
- ① 点火プラグキャップを外して、プラグレンチ（お客様手配）で点火プラグを取り外します。

プラグレンチ



- ② 汚れている場合はワイヤブラシなどで側方電極部を清掃してください。ワイヤブラシは別売りです。

ワイヤブラシ



- ③ プラグ隙間を確認し、側方電極を曲げてプラグ隙間を下記寸法に調整します。
プラグ隙間：0.7~0.8mm

プラグ隙間
0.7~0.8mm



- ④ 点火プラグ交換時は指定の点火プラグを使用してください。
・プラグ品番 BPR6ES (NGK)
W20EPR-U (DENSO)

- ⑤ 点火プラグ取り付けはねじ山を壊さないように、はじめは指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付けてください。

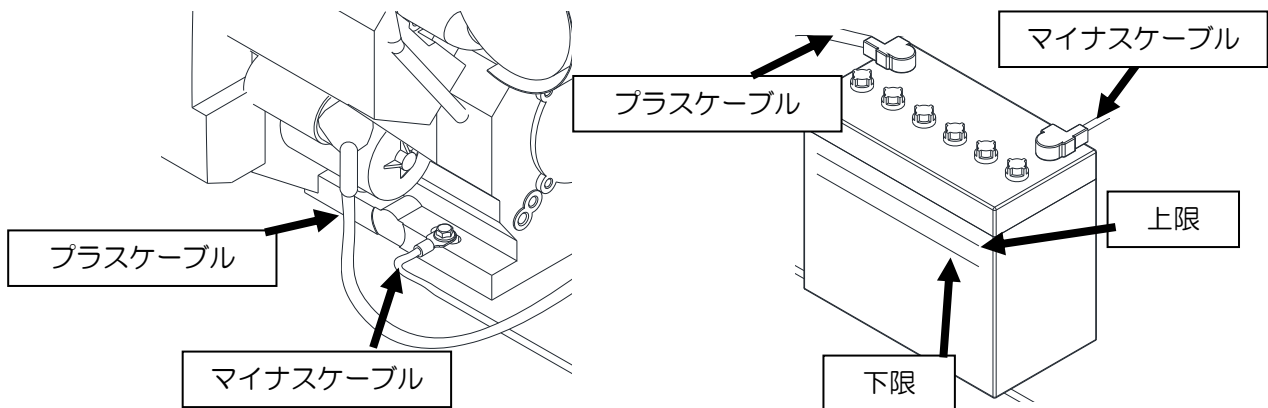


- ・故障の原因となるので、指定以外のプラグを使用しないでください。
- ・点検調整後はプラグキャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

保守・点検について

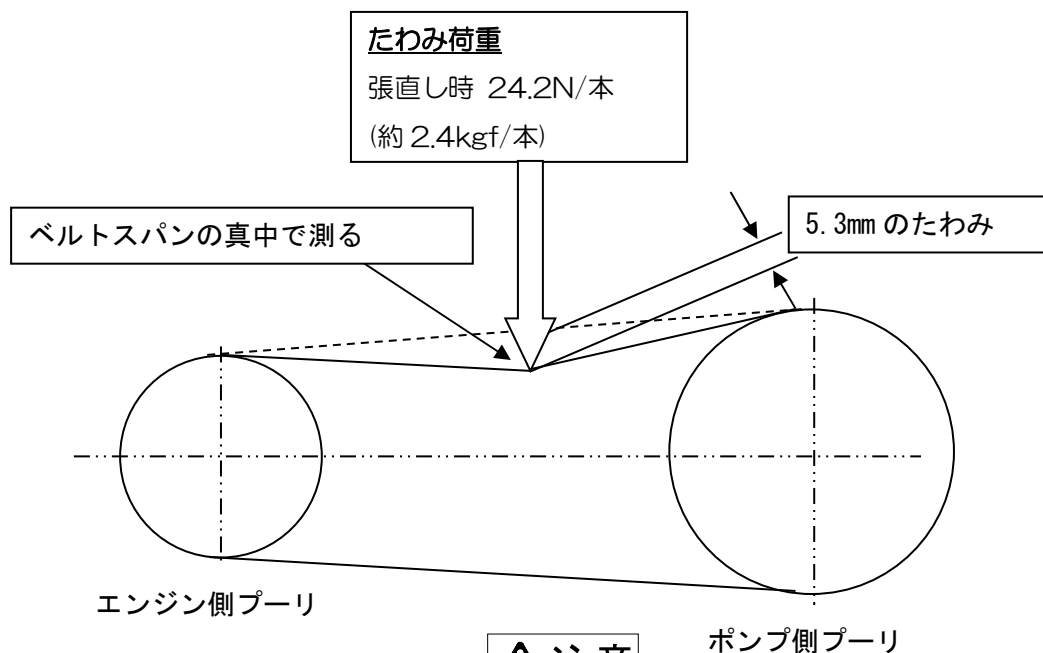
4. バッテリーケーブルの点検

- ① バッテリーの液面が上限と下限の間にあることを確認します。
- ② 少ない時はキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
- ③ キャップの通気孔の詰まりが無いことを確認します。
- ④ バッテリーの接続が間違っていないか、また締め付けナットが緩んでいないことを確認してください。



5. Vベルトの点検

VベルトはポンプVプーリーとエンジンVプーリーの間を 24.2N/本(約 2kgf/本)の荷重で押えて 5.3mm 程度たるみがある位に張ってください。



注意

- ・ 運転前にベルトの張りを点検し、必要であれば、張りなおしをしてください。
- ・ 本機はベルト掛けです。運転中は衣類等が巻き込まれてケガをすることがあります。近づかないようにしてください。点検時には必ず始動しない措置を取ってください

定期点検項目

点検項目	時間（各時間ごとに実施）				
	作業前	50h	200h	300h	500h
【本機】					
各部の締付点検	○				
各部の水漏れ点検	○				
各部のオイル漏れ点検	○				
異常音、異常振動の点検	○				
防振ゴムの劣化、損傷、へたりの点検	○				
重要ラベル（PL）の剥がれ、汚れ、破れの点検	○				
【ホース】					
給余水ホースのパッキンの点検	○				
高圧ホースの傷・アダプタからの水漏れ点検	○				
ガンの水漏れ点検					
【配管】					
中間ホースの水漏れ点検	○				
圧力計の点検	○				
【高圧ポンプ】					
オイルの点検	○				
オイルの交換		○ (初回のみ)	○	○	
<p>(1) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。</p> <p>(2) 上記の時間は点検の目安であり耐久時間を示したものではありません。</p> <p>(3) 圧力が低下したり振動が大きい時や、水・オイル・燃料漏れ等の異常を感じた場合はそのまま使用せず、販売店または最寄りの弊社営業所までご相談ください。</p>					

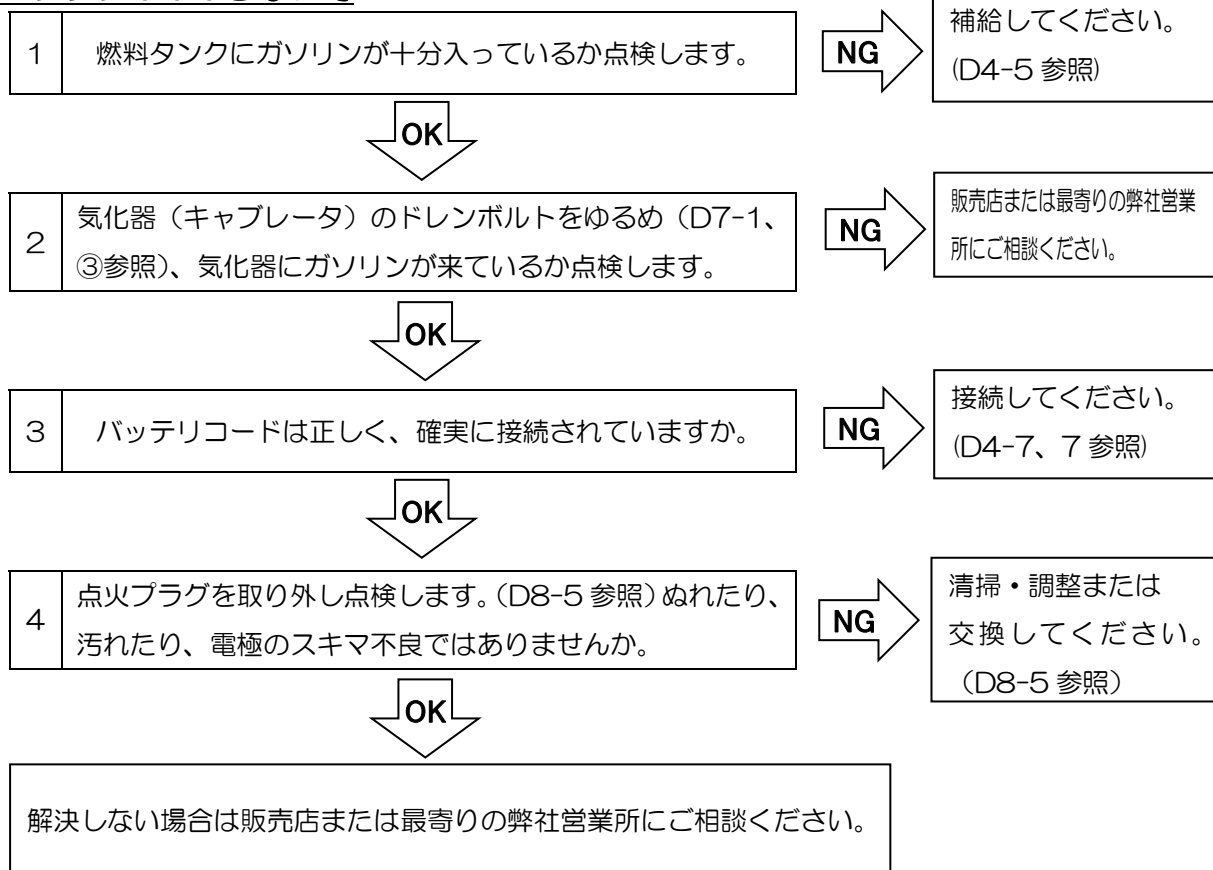
定期点検項目

点検項目	時間（各時間ごとに実施）						
	作業前	20h または 1か月目 初回のみ	50h または 3か月ごと	100h または 6か月ごと	200h	300h または 1年ごと	500h または 2年ごと
【エンジン】							
オイルの点検	○						
オイルの交換		○		○			
エアクリーナの点検	○						
エアクリーナの清掃			○（1）				
エアクリーナ紙ろ過部の交換						○	
点火プラグの点検、調整				○			
点火プラグの交換						○	
スパークアレスタの清掃				○			
アイドル回転数の点検、調整						●	
吸入、排気弁のすき間を点検、調整						●	
燃焼室の清掃	●500時間運転ごと（4）						
フューエルストレーナの交換						●	
燃料チューブの交換	●2年ごと（必要なら交換）						
<p>（1）ほこりの多い場所で使用した場合、エアクリーナの清掃は10時間運転ごとまたは1日1回行ってください。</p> <p>（2）点検時期は表示の期間ごとまたは時間運転ごとのどちらか早い方で実施してください。</p> <p>（3）●印は、技術や特殊工具が必要ですので、販売店または最寄りの弊社営業所に依頼してください。</p> <p>（4）表示時間を経過後すみやかに実施してください。</p> <p>（5）上記の時間は点検の目安であり耐久時間を示したものではありません。</p> <p>（6）振動が大きい時や、水・オイル・燃料漏れ等の異常を感じた場合はそのまま使用せず、販売店または最寄りの弊社営業所までご相談ください。</p>							

故障診断

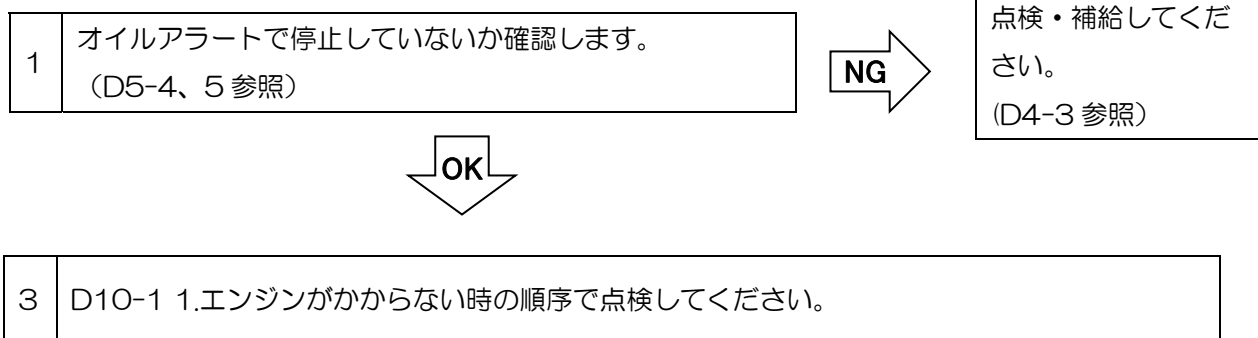
高圧洗浄機の調子が悪い時は、修理を依頼する前に、次の順序で点検を行ってください。点検された上で、なお異常のある場合や不安な箇所がありましたら、そのままの状態にして、販売店または最寄りの弊社営業所にご相談ください。

1. エンジンがかからない時

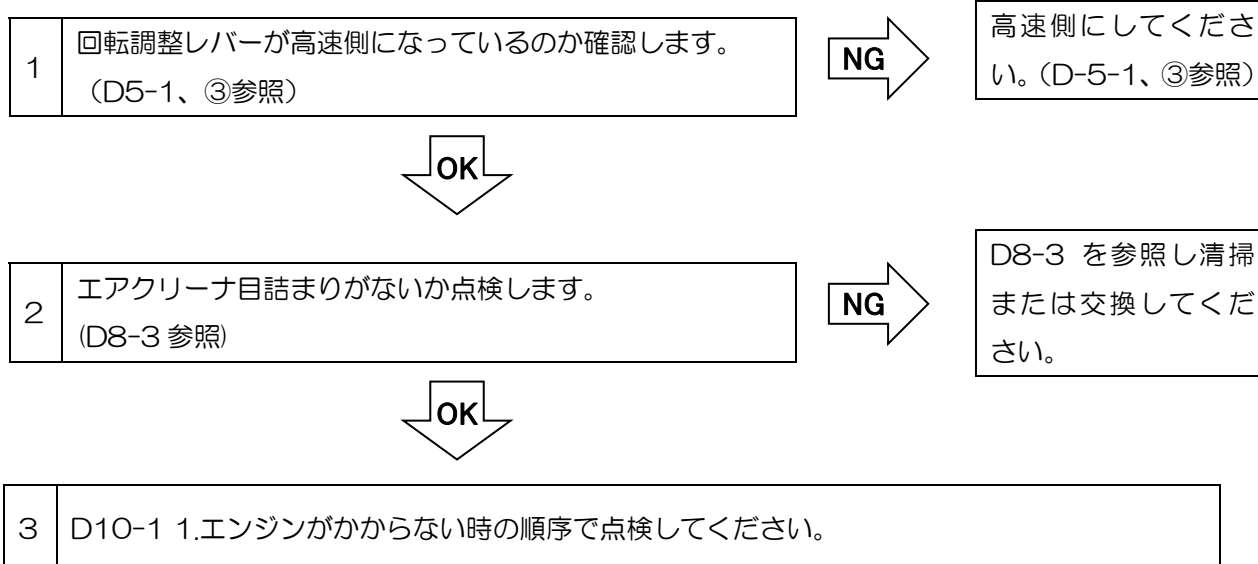


故障診断

2.エンジンが始動してもすぐ止まる

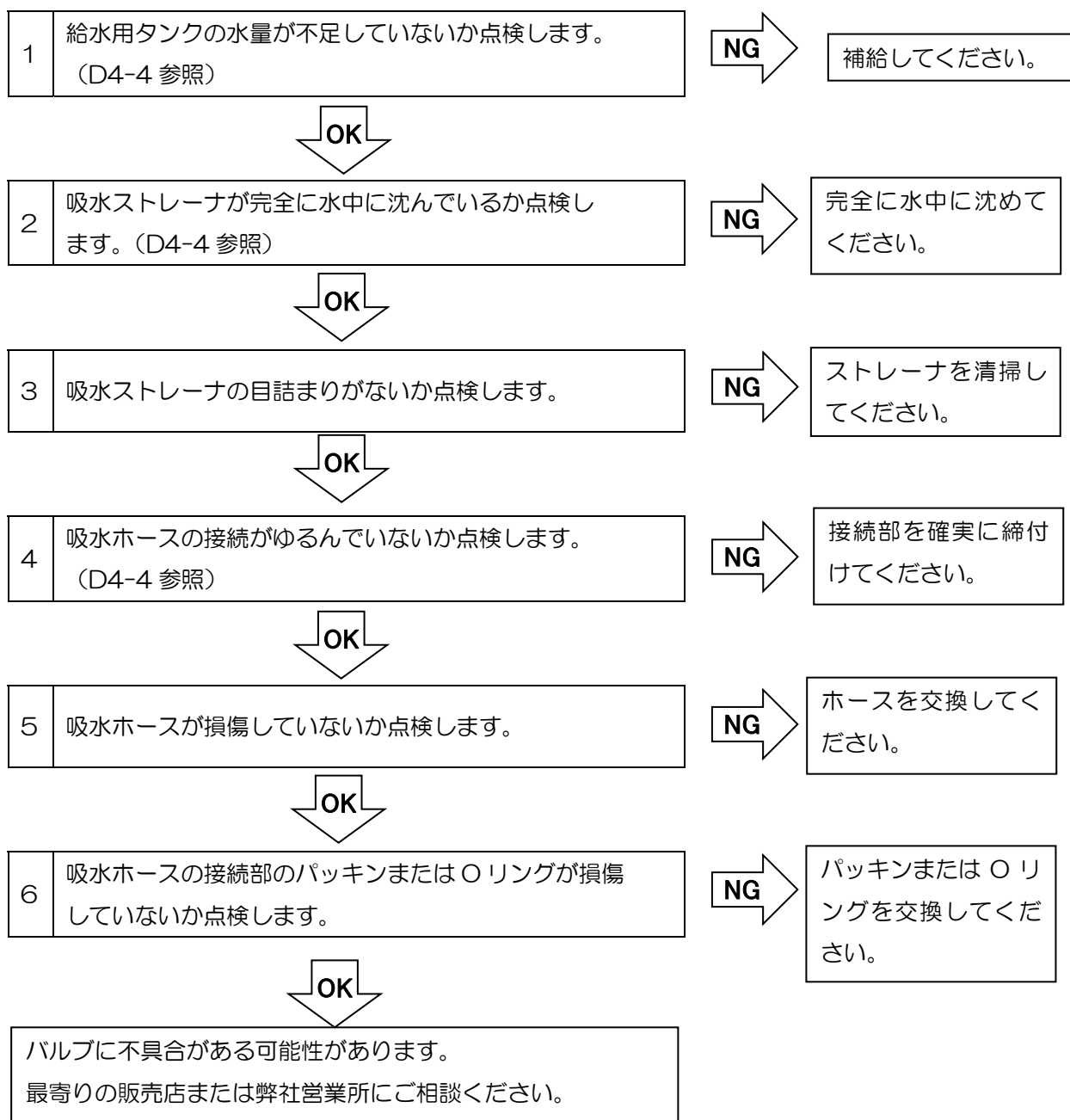


3.出力が出ない、出力がだんだん落ちてくる



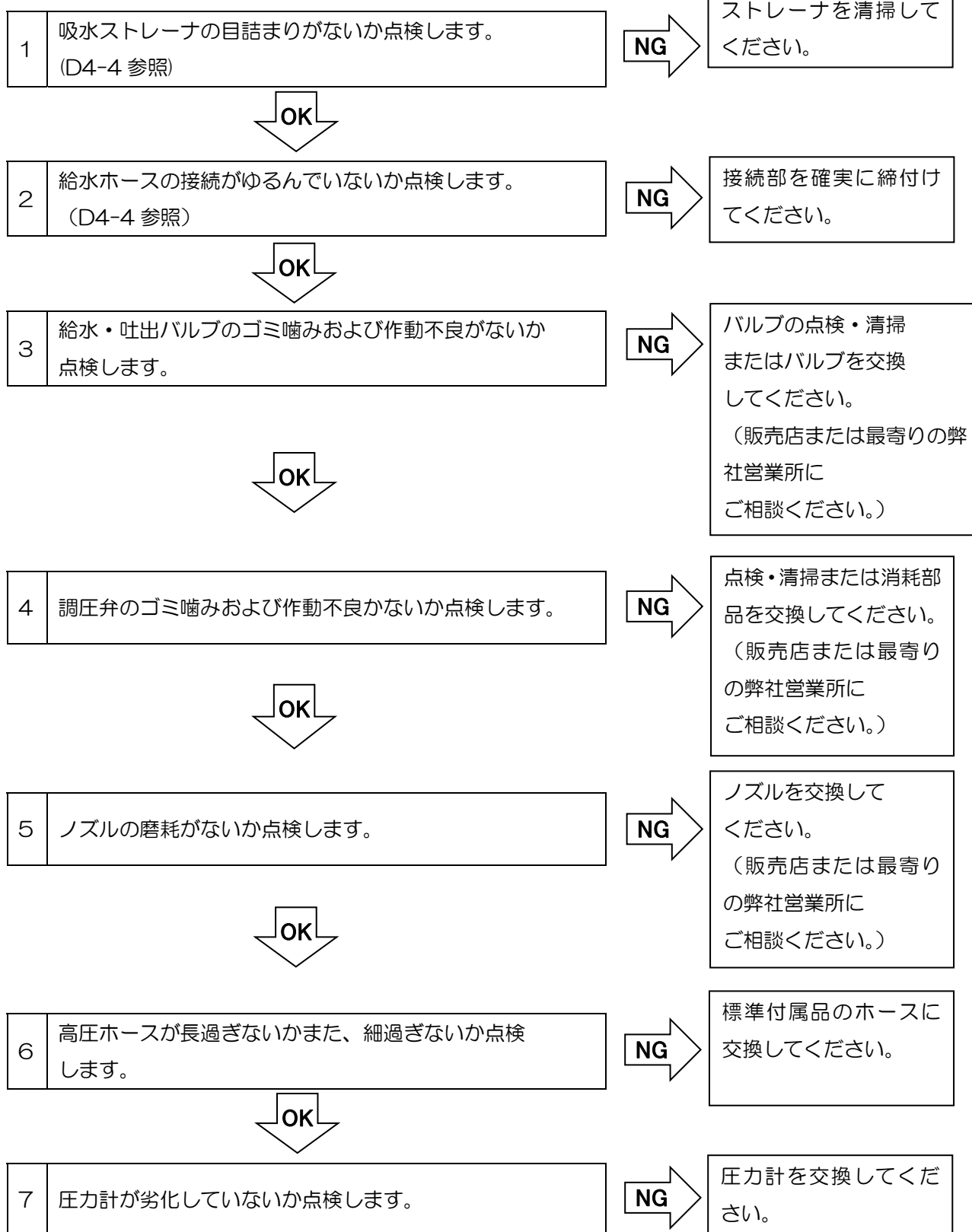
故障診断

4.水が吸い込みにくい、また吸わない



故障診断

5.圧力が上がらない



わからない事や、故障したら

●ご使用の製品についてわからない事や故障が生じた時に、次の事を確認の上、販売店または弊社まで弊社までお問い合わせください。

- (1) 型式名と機番（銘板をご確認ください） ※ 銘板の位置は D1 ページを参照ください。
- (2) ご使用状況（どんな時に） (3) ご使用時間
- (4) 故障状況（水を吸わない、圧力が上がらない、原動機が始動しないなど）

●お客様メモ

後日のために記入しておいてください。
お問合せや部品のご用命の際にお役に立ちます。

製造番号 :
購入年月日: 年 月 日
お買い求めの販売店

Asada アサダ株式会社

本 社 / 名古屋市北区上飯田西町3-60 TEL (052) 911-7165 E-mail: sales@asada.co.jp

製品の使用方法に関するお問合せは

☎ 0120-114510 (イイシゴト)

(受付時間) 9:00-12:00 / 13:00-17:00 (土・日・祝日は除く)

支 店 / 東京・名古屋・大阪
営業所 / 札幌・仙台・さいたま・横浜
 広島・福岡

海外事業所
アサダ・タイランド社 (バンコク) アサダ・インド社 (ムンバイ)
台湾浅田股份有限公司 (台北) 上海浅田進出口有限公司 (上海)
アサダ・ベトナム社 (ホーチミン) アサダ USA (カリフォルニア州)

工 場
犬山工場 (愛知県・犬山市)
アサダ第一精工株式会社 (松 阪 市)
アサダ・マンナリー社 (バンコク)

www.asada.co.jp

Ver.03 コードNo. IM0506 A